

## ～野菜の消費行動に関する調査結果の概要～

## &lt;調査結果の要約&gt;

- 野菜不足を感じている人 6割 / 野菜不足になっていないとは思わない人 4割
- 野菜不足を感じる人の9割強が野菜不足に対処 ～野菜そのものを増やして行きたい～
- “週に2～3回、一度に500～700円程度購入”が買い物の平均像  
1週間の野菜の購入金額 既婚女性で2,220円、単身者は1,170～1,360円
- 家族1人当たり1日100円 ～野菜不足を感じない野菜の購入金額～
- 購入時には、①鮮度 ②国産品 ③販売単価 ④旬 ⑤ちょうど良い量 を重視
- 野菜の購入場所は、スーパーマーケット 8割弱、生協・直売所 7%、青果専門店 6%

■ 6割強の人が野菜不足を感じています。健康志向が強まるなか、野菜不足を感じている人の9割強は何らかの対処をしたいと考えており、特に、今後は野菜そのものの摂取量を増やして行きたい人が多くなっています。一方で、「調理する時間がない」「野菜の調理が面倒」「食事が不規則」等の障害も多く、「生活習慣や食生活を改善したい」意識をもう一押し喚起することが必要と思われます。

■ 既婚女性で「野菜不足になっていないとは思わない人（野菜不足なし）」と「野菜不足を感じている人（野菜不足）」の1週間の野菜の購入金額を比較すると、平均金額で「野菜不足なし」は家族1人当たり700円/週（1日100円/人）、「野菜不足」は同555円/週（1日80円/人）となっています。「野菜不足なし」と「野菜不足」の差145円/人・週（1日20円/人）、家族3～4人では日に60～80円（量的にはトマト1個あるいは小松菜半束程度）が、自覚の上での野菜不足感となっています。

社団法人 JA総合研究所（略称：JA総研、所在地：東京都千代田区）は、Food Japan Network事務局（略称：FJN、所在地：東京都港区）と共同で、「野菜の消費動向に関する調査」を実施いたしました。

JA総研とFJNは、農畜産物に関する消費者の購買行動・食品に関する知識・嗜好などを調査・分析し、生産農家等の生産・販売計画作成の参考となるデータを提供するため、年に数回共同で調査を実施してまいります。今回の調査はその第2回目で、「野菜」をテーマにとりあげました。

～本件に関するお問い合わせ先～

社団法人 JA総合研究所 協同組合研究部 主席研究員 濱田亮治 TEL 03-5214-0841

～調査データの提供について～

Food Japan Networkでは会員サービスとして、本調査の調査データを提供(有償)する予定です。お問い合わせは、TEL 03-3505-6796 服部、溝江まで

【調査概要】

■調査方法	インターネットリサーチ			
■調査地域	全 国			
■調査主体	社団法人 JA総合研究所、Food Japan Network 事務局			
■実施機関	株式会社 インテージ・インタラクティブ			
■調査日時	2008年4月18日(金)～4月23日(水)			
■有効回答者数	Yahoo!リサーチ モニター会員 n=1,294			
	合 計	主 婦	男性単身者	女性単身者
20代以下	130(10.0)	52 ( 5.5)	44 (27.0)	34 (17.8)
30代	235(18.2)	185 (19.7)	25 (15.3)	25 (13.1)
40代	369(28.5)	313 (33.3)	23 (14.1)	33 (17.3)
50代	302(23.3)	241 (25.6)	25 (15.3)	36 (18.8)
60代	161(12.4)	101 (10.7)	24 (14.7)	36 (18.8)
70代以上	97( 7.5)	48 ( 5.1)	22 (13.5)	27 (14.1)
合 計	1,294(100)	940(100)	163 (100)	191 (100)

<調査結果の概要>

1. 野菜不足感

Q あなたはなぜ自分が「野菜不足」になっていると思いますか？（選択肢から複数回答）

【 野菜不足を感じている人 6割 /野菜不足になっているとは思わない人 4割 】

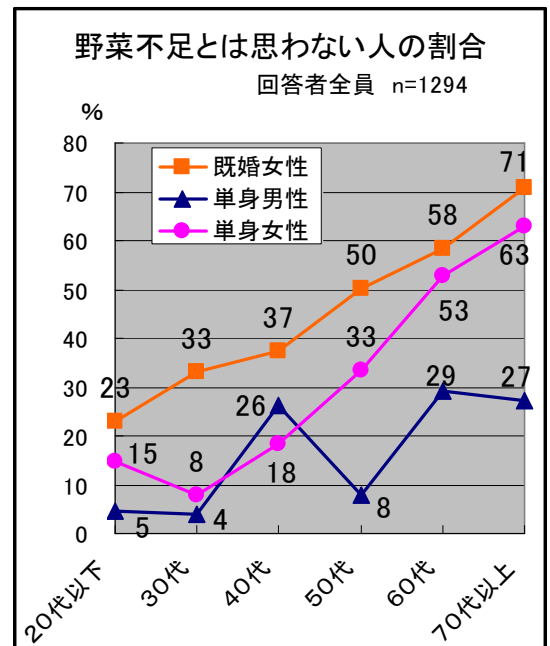
設問に対して、「野菜不足になっているとは思わない」と回答した人は約4割（38％）で、逆に6割強の人が「野菜不足を感じている」結果となりました。

「野菜不足になっているとは思わない」人は、既婚女性43％・単身女性32％・単身男性15％と、単身者、特に男性で「野菜不足を感じている」人の割合が高くなっています。

年代別に見ると、

既婚女性・単身女性では年代別の傾向が顕著に表れており、年齢が高くなるほど「野菜不足になっているとは思わない」割合が高くなっています。

単身男性では、「野菜不足になっているとは思わない」人は一番割合の高い60代でも3割弱にとどまり、20代以下・30代・50代では9割以上の方が「野菜不足を感じている」結果となりました。



## 2. 野菜不足の解消方法

Q あなたは、野菜そのものの不足について、今後はどのように対処しようと思っていますか？  
(選択肢から複数回答)

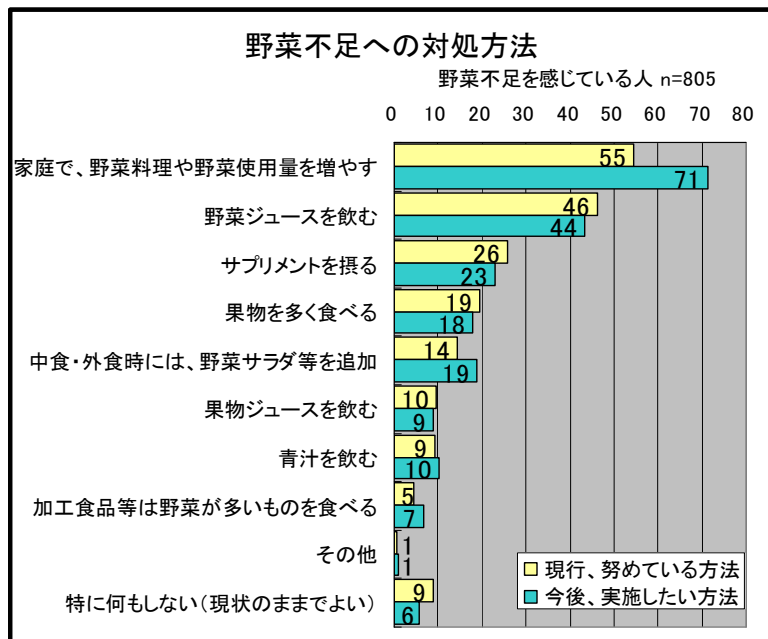
【 9割強が野菜不足に対処 ～野菜そのものを増やして行きたい～ 】

野菜不足を感じている人に、野菜不足への対処方法を聞いたところ、9割以上の方が野菜不足に対して何らかの対処をしたいと考えていることが明らかになりました。健康志向が強まるなか、今後も「特に何もしない(現状のままでよい)」と回答した人は6%で、現行「特に何もしていない」より3ポイント少なくなっています。

今後の対処方法で多かったのは、①「家庭で、野菜料理や野菜の使用量を増やす」7割強(71%)、②「野菜ジュースを飲む」4割強(44%)、③「サプリメントを摂る」2割強(23%)の順。

現行努めている方法との比較では、「野菜ジュース」「サプリメント」は若干減少。「家庭の野菜料理」や「中食・外食時には、野菜サラダ等を追加する」はそれぞれ16ポイント・5ポイント増加しており、今後は野菜そのものの摂取量を増やして行きたい人が多くなっています。

野菜不足を感じている人ほど、「調理する時間がない」「野菜の調理が面倒」「食事が不規則」を野菜不足の理由にあげています。また、手軽に摂取できる「野菜ジュース」「サプリメント」で不足補う傾向が強く、不足に対して「特に何もしていない」割合も高くなっています(調査報告書のP27、P33をご覧ください)。野菜そのものの摂取を増やすには、「生活習慣や食生活を改善したい」意識をもう一押し喚起することが必要と思われます。



### 3. 野菜の購入頻度と1回当たりの購入金額

Q あなたは、普段、平均して週何回くらい野菜を購入されますか？

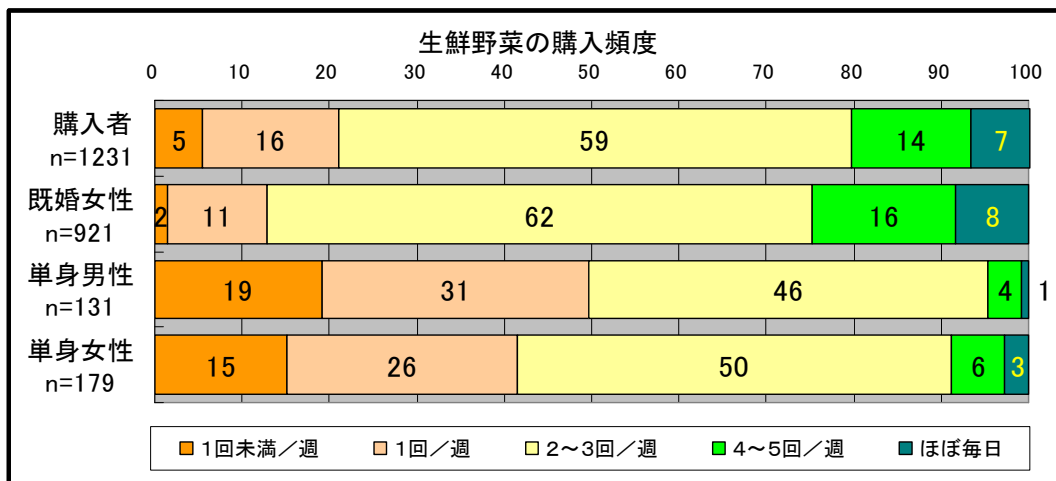
Q あなたが一度に購入する野菜は、合計して大体いくらぐらいですか？

(選択肢からひとつ回答)

【 “週に2～3回、一度に500～700円程度購入” が買い物の平均像 】

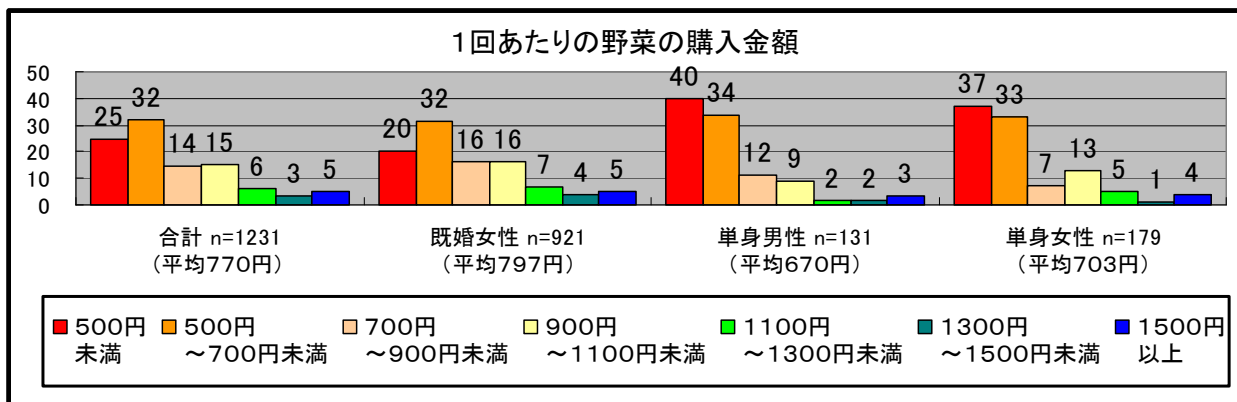
野菜の購入頻度は、「週に2～3回」が6割（59%）で一番多く、次いで「週に1回」「週に4～5回」が15%前後。「ほぼ毎日」は7%となっています。

単身者では、「週に1回」が3割前後、「週に1回未満」も2割近く、既婚女性に比べると野菜の購入頻度は少なくなっています。



一度に購入する金額は、「500円～700円未満」が3割強（32%）、「500円未満」が25%で、平均で770円となっています。

単身者では、「500円未満」が4割と多くなっています。

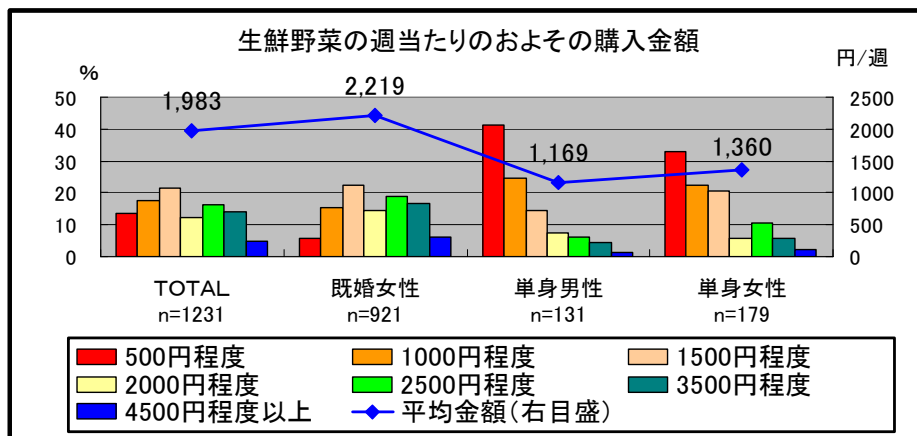


#### 4. 1週間の野菜の購入金額

【 1週間の野菜の購入金額 既婚女性で2,200円、単身者は1,170～1,360円 】

購入頻度と1回当たりの購入金額から計算した1週間のおよその購入金額は、平均で約2千円、500円程度から3500円程度まで平坦な分布となっています。

既婚女性は、1000円程度から3500円程度まで平坦な分布となっており、平均では2,219円/週。単身者では、500円程度が一番多く、男女それぞれ平均で1,169円/週、1,360円/週と、女性の方が200円程度高くなっています。



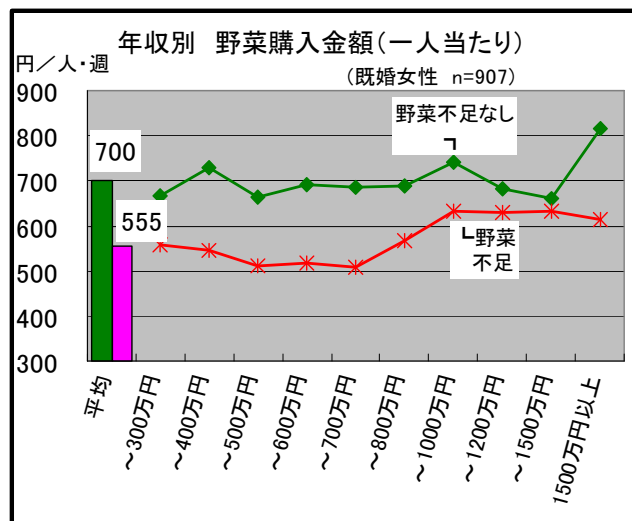
#### 5. 野菜不足を感じない1週間の野菜の購入金額

【 家族1人当たり1日100円 ～野菜不足を感じない野菜の購入金額～ 】

既婚女性について、世帯年収別に「野菜不足になっているとは思わない人(野菜不足なし)」と「野菜不足を感じている人(野菜不足)」毎に、1週間の家族1人当たりの野菜購入金額を計算しました。

その結果、「野菜不足なし」では、年収に関係なく約700円であることが判りました。家族1人当たり1日100円、これが野菜不足を感じない購入金額と推計されます。

一方、「野菜不足」では、年収が高くなるほど購入金額は上昇するものの、平均で555円(1日80円/人)、「野菜不足なし」との差である145円(同20円/人)が野菜不足感がとなって表れていると言えます。



注) サンプル数が少ない200万円未満を除く

## 6. 生鮮野菜の購入時に重視する点

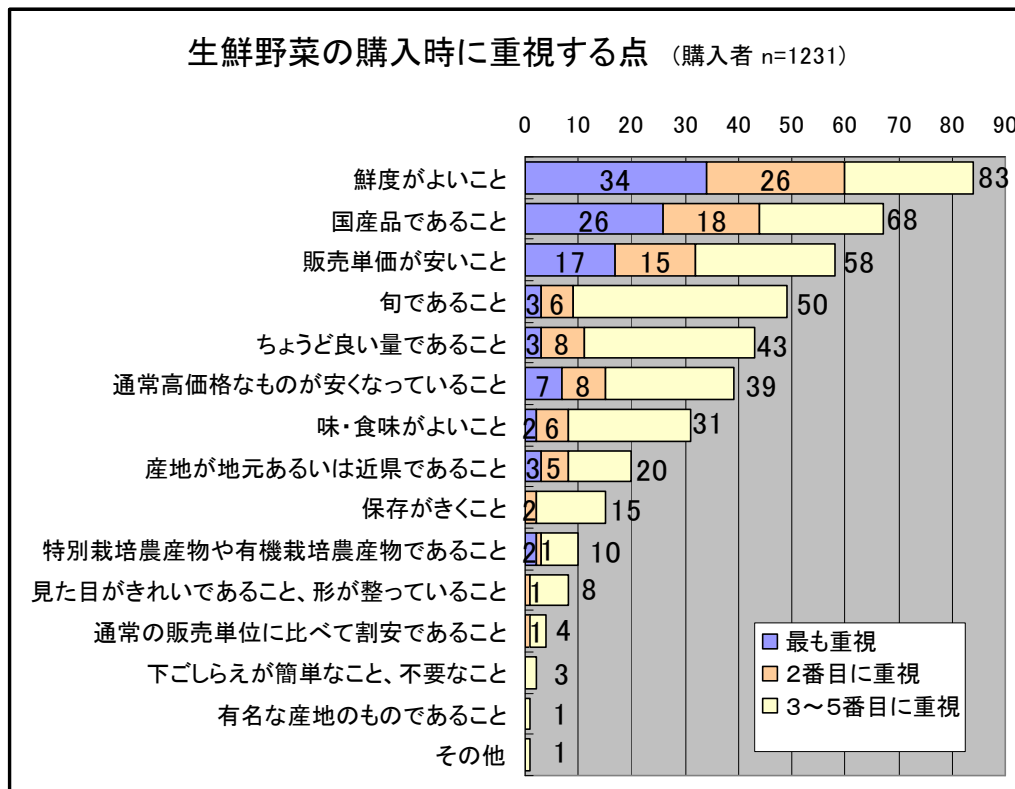
Q あなたは、野菜を購入する際に何を重視していますか？（選択肢から複数回答（五つまで））

【 ①鮮度 ②国産品 ③販売単価 ④旬 ⑤ちょうど良い量 を重視 】

生鮮野菜を購入する際に重視する点を五つまであげてもらったところ、一番は「鮮度がよいこと」で8割強（83%）が重視しています。次いで、「国産品であること」7割弱（68%）、「販売単価が安いこと」6割弱（58%）、「旬であること」5割、「ちょうど良い量であること」4割強（43%）の順となっています。

年代別の傾向を見ると、年代が高くなるほど、「鮮度」「旬」「味・食味」といった野菜そのものを評価する項目や、それを裏付ける産地、栽培方法を重視する割合が多くなる傾向が出ています。

一方で、「販売単価が安いこと」「保存がきくこと」は年代が低いほど重視する人の割合が高くなっています。（年代別の図表は、調査報告書のP16をご覧ください。）



## 7. 野菜の購入場所

Q あなたは、普段、野菜を主にどこで購入していますか？（選択肢からひとつ回答）

【 スーパーマーケット 8割弱、生協・直売所 7%、青果専門店 6% 】

生鮮野菜を主に購入する場所は、スーパーマーケットが8割弱（76%）、生協・直売所7%、青果専門店6%の順となっています。

エリア別に見ると、スーパーマーケットは北海道・東海・京阪神、生協は北海道・東北・甲信越北陸、農産物直売所は北関東・中国四国・九州、青果専門店は京浜・九州で、他の地区に比べて割合が高くなっています。

特に、農産物直売所は当研究所が本年2月に実施した調査でも販売実績が大きく伸長しています。直売所の“地産地消”のコンセプトは、消費者が生鮮野菜の購入時に重視する点の上位4点 ①鮮度 ②国産品 ③販売単価 ④旬にマッチしており、他のエリアでもシェア拡大の可能性は高いと言えます。

